

大田区立志茂田福祉センターで行っている就労継続支援B型は、障がいのある方がさまざまな仕事を通して地域社会とつながり、一人ひとりが生き生きと働くことができるよう、企業などからの受注作業や自主生産品の販売を行っています。

# 身近な生活の中に

志茂田福祉センター

■ 受注作業の一例 劇場などで使用するイヤホンなどを1本ずつ丁寧にクリーニングします。

## 作業前



このような状態で届けられます。

## 作業の様子



細かい作業なので根気と集中力を要します。

## 完成品

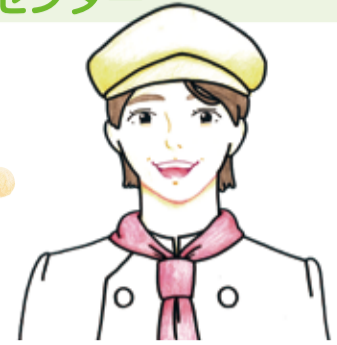


1本ずつ消毒して袋に入れます。

このように皆さんの身近な物に、障がいのある方の仕事関わっています。

### ほかの受注作業例

- プラスチック部品の成形
- ボトルラベル貼り
- 箱折り
- 付録パッケージ作業 など



### ■ 就労継続支援を受けている方のお話

受注作業のほかに、手作りパンや自主生産品の製造も行っています。

手作りパンは、毎週水曜日に開催している「しもだや」の営業に合わせて、生地を仕込み、焼き上げ、販売まで行っています。

自分たちが仕込みから作ったものが実際に売り場に並び、地域のお客さんが買っていくところを見ると、とてもうれしいです。

# 企業などへの就職を目指して

## チャレンジ雇用事業

各自治体などで、障がいのある方を会計年度任用職員として雇用し、短時間勤務の機会を提供し、その経験を生かし一般企業などへの就職につなげる事業です。

区では、精神障がいのある方のチャレンジ雇用事業を行っています。雇用にあたっては、障がいの特性に応じて業務内容の伝え方を工夫しています。

～チャレンジ雇用を終えて～ チャレンジ雇用を活用し、区で勤務をしていた方に話を聞きました。

### ● どのような業務を担当していましたか？

主に郵便物の仕分けやデータ入力などを行っていました。



### ● 職場は、どうでしたか？

初めは、慣れない環境に不安を抱えていましたが、職員の方が声をかけてくださり、緊張は和らぎました。仕事面では、少しずつできることが増え、仕事を任せられることにやりがいを感じ、自信になりました。今後の就労に生かしていきたいと思っています。

### ● 職員の声

重い荷物やコピー用紙を移動させるときに「お手伝いします。」と声をかけてくださるなど、作業を率先して行い、熱心に業務に取り組む姿が印象的でした。

折にふれ、「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えてくださるなど、見習うべきところが多くありました。

- 「できること」「できないこと」は、本人に率直に確認して仕事を進めます。
- わからないことは、遠慮しないで質問できる関係を築きます。

## ● しょうがい者文化展

今年で46回目を迎えました。毎年、多くの方々に作品をご覧いただいています。さまざまな場所での出会い、感動、喜びを作品として表現し、発表したい。それは、多くの人々が持つ共通の気持ちではないでしょうか。

障がいのある方々が、編み物をする、筆を持つ、絵を描く、みんなで力を合わせて作品を作り上げていく。作品には作者の思いや工夫が表現されています。会場では、そんな作品が数多く出展されています。作品を通して作者のエネルギーを感じてみませんか。



昨年の様子

素晴らしい作品がみなさんをお待ちしています。

日時▶ 12月11日(金)まで  
午前8時30分～午後5時15分  
(土・日曜を除く。11日は正午まで)  
会場▶ 区役所本庁舎3階

## ● 来場して景品をゲットしよう

※先着100名 ※1人1回まで

### 参加方法

- ① 区報を持ってしょうがい者文化展に行く。
- ② 会場に設置してあるスタンプを下の枠に押す。
- ③ スタンプを押した区報を持って障害福祉課(区役所本庁舎1階11番)の窓口に行く。
- ④ 景品をもらう。(おおむすびプチセット)

